

大町市連合自治会

大町市議会との意見交換会及び病院研修会

平成23年9月29日(木)大町市連合自治会による「大町市議会との意見交換会」、「病院研修会」を開催し26名の自治会長さんにご参加いただきましたのでご報告いたします。

大町市議会との意見交換会

(10:00~12:00)



会場	市役所 西庁舎 2階 西会議室
出席者	市議会: 議員18名 市連合自治会: 自治会長23名

昨年に引き続き、選挙によって選ばれた市民の代表者としての市議会議員の皆さんと、地縁の自治組織の代表者としての自治会長さん方が、それぞれにお持ちの情報やまちづくりに関する要望や提言を意見交換することで、それぞれの活動や施策推進に結びつけることを目的として、市議会との意見交換会を開催しました。

まず前段に「市議会の仕組み」、「市議会基本条例」の概要説明をいただき、意見交換へと移りました。特にテーマを設けずに自由に発言いただき、活発な意見交換となりました。

市連合自治会の出席者からは、次のような意見・提言が出されました。

○市議会基本条例には議員の政治倫理に関する申し合せ事項があり、市議会議員は市から助成を受けている団体の長に就くことは禁じられており、自治会も市から補助金を受けているため、自治会長も議員の兼職禁止に該当するとお聞きした。多くの自治会では加入者が減り、高齢等の理由により役員選出が困難で大変苦勞している。市議会議員が自治会長を兼務しても差支えがないと考える。兼職禁止のルールを見直していただくように要望する。

○市議会基本条例制定後、様々な団体と意見交換会を開催され、数多くの意見や要望が出されたことと思うが、その後の議会活動に生かされた点などお聞かせいただきたい。

○議会改革に向け様々な改革を進めてこられているが、市の財政状況からみると議員定数や報酬の削減も検討しなければならないと考えるが、市議会として適正な議員定数、報酬額についてどのようにお考えかお聞きしたい。

(省略)

写真(右):坂井市連合自治会副会長
意見交換会の座長を務めていただいた。



このような市連合自治会の意見・要望に対し、市議会からは次のような回答がありました。

●議会は自治会に交付される補助金や、自治会からの数多くの陳情を審議する立場にある。その予算、陳情に対して自治会長を兼務している議員が重複した立場で審査に当たることは、我田引水との誤解を招く恐れがあると考え、兼職禁止という申し合わせとなった。

●意見交換会を開催したことによって、市民の皆さんの生の声を数多くお聞きすることができた。ご意見、ご要望は政策調整委員会で検討し、さらに常任委員会でどのような手段で行政に投げかけていくのか慎重に審議している。

●議員定数、報酬に関しては、市民の皆さんの議会に対するニーズの高まりが反映されるものであり、今後とも議論を重ねる必要がある。(省略)

予定していた2時間では足りないような中身の濃い意見交換会になったのではないかと感じております。

市連合自治会としましても、地区住民の皆さんのご意見を行政に反映させていくための、パイプ役としての役割を果たすことにより、議会の皆さんと共に手を携え、大町市をいかに発展させていくかを、一緒に考えていくことが必要なのではないかと、改めて確認できた意見交換会となりました。

「市議会との意見交換会」の会議録は、市連合自治会ホームページに掲載する予定ですのでご覧ください。

◆ 病院研修(14:00~15:30)

市立大町総合病院に場所を移し、引き続き研修を実施しました。

研修内容につきましては次の3点を中心に、山田院長をはじめ病院スタッフの説明をいただきました。

① 地域医療を担う大町病院の実情及び将来への展望について

市立大町総合病院は、昭和2年に長野県最初の公立病院として開設され、増改築を経て、現在284床12診療科を備える病院となりました。大北地区の基幹病院として、この地域唯一の産科医療、また観光地として旅行者の疾病への対応等も行われています。

経営形態としては平成19年度より地方公営企業法の全部適用とし、療養病棟・亜急性病床・虹の家等との連携で、地域の高齢化社会への対応が図られています。

経営改善に向け、今年4月に経営企画室を設置し様々な取組みを展開されています。医師や看護師確保に向けた取組みや、カモシカ学習会等の医療レベルや職員の知識レベル向上に向けた取組み、病院祭の開催等の住民に親しまれる病院に向けての取組みがなされています。「地域住民こそが地域医療を支える主役」として、地域住民との協働が大町病院の再生の道であるとの説明を受けました。



② 今回の大震災でのDMATの支援活動報告



3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震の被災地支援のため、大町病院のDMAT(災害派遣医療チーム)が岩手県釜石市に派遣され、県立釜石病院において支援活動が実施されました。

写真(左): 整形外科伊藤仁医師によるDMATの支援活動報告

DMATは災害発生時に迅速に活動できる専門的な訓練を受けた医療チームで、大町病院のDMATは平成21年に結成され、整形外科の伊藤仁医師を筆頭に、看護師や臨床工学技師ら5人で構成され、今回が初めての支援活動となったそうです。

「一人でも多くの命を助けよう」を合言葉に、震災発生当日の19時に市立大町総合病院をDMAT隊が出動。新潟経由で北上し、翌12日14時県立釜石病院に到着、院内支援活動が開始されました。通信状態が不安定で情報が全く入らないなかで、夜中も交代で診療

にあたり、搬送の手伝いや病院支援、骨折の処置や被災し体調を崩した人などの処置を行ったとの報告を受けました。13日17時まで支援活動を継続し、現地での救助活動を無事終えて14日に帰還されたとのことでした。

緊急医療体制が整っていたならば「阪神・淡路大震災の犠牲者のうち、500人は助かった可能性があった」という反省から発足されたのがDMATです。災害は起こらないに越したことはありません。DMATも出動依頼がないことが望ましいことではありますが、DMATが被災地にかけつけ、現場での緊急治療や病院支援を行うことによって、死亡や後遺症の減少が可能となり、その活動には大きな期待が寄せられています。

③施設見学

看護師により、研修会参加者を3班に分けて、1階から6階まで病棟を除く様々な設備等を丁寧に案内していただきました。

日頃、目にする事のない高度な医療器械や設備を見学することができたことは、多くの参加者にとって有意義な体験であったと思われます。



「市立大町総合病院を守る会」では、患者さんに「お世話になった病院の皆さんに感謝の気持ちをとどけましょう。」と呼びかけ、ありがとうポストを院内に設置。投函されたメッセージは院内に設置された掲示板等で紹介されています。



感謝の言葉が病院スタッフの励みとなり、病院全体にぬくもりが感じられます。

市連合自治会では、身近な地域活動を通じ行政との協力を図りながら、明るく住み良いまちづくりを進めるために様々な研修を計画しております。今後ともより多くの方のご参加・ご協力をお願いいたします。

大町市連合自治会事務局:大町市役所 庶務課 市民活動支援係 Tel22-0420(内線 831)
大町市連合自治会ホームページ <http://www.city.omachi.nagano.jp/rengo/toppage.htm>